

マレーシア便り (第2回)

兵庫県立津名高等学校
理科 物理担当 井俣 由貴史

こんにちは。5月中旬にもなり、中間考査等でお忙しくされているかと思えます。体調などはいかがでしょう？

総合体育大会も行われ、体育部として最後の締めくくりになるシーズンですね。継続して取り組んだ部活動、気持ちよく最後を迎えることができるよう願っています。

マレーシアでは、部活動から離れ、主に教科指導です。ここでは日本の教科書ではやりにくいので、分野別に担当して、テキストを作成しています。(印刷業者に依頼して作成します。) それ以外は事務的な仕事(教務関係)をしています。その中でも出席統計、物品関係のことをしています。

生徒は2年間このコースに通い、日本語、数学、物理、化学の授業を受けます。1年目は主にローカルの先生の元で専門教科の授業を、日本語は日本人とローカルの先生の元で授業を受けます。そして、2年目には日本人教師の元でほとんどの授業を受けます。生徒は8:00~18:00まで授業があります。ただでさえ、外国語なのに、その外国語で書かれた課題を多く出されます。すごい努力だと思います。

こちらも中間考査、期末考査があります。6月の中旬に中間考査です。これも毎回担当が決まっていいて、1ヶ月以上前に原案が出来上がり、それも複数の目で何回も話し合います。期末考査は大学の管轄なので、1ヶ月前には提出しないとイケませんので、もっと早い時期での検討になります。そして、定期考査のための演習もします。定期考査が十分に生きるように、これも演習用の冊子をつくります。

長くなりましたが、生徒は「日本留学試験(EJU)」に合格するために必死(だと思います)です。

個人的なことですいません。

毛笠 先生

横浜国立大学から、マラヤ大学と交換留学で来ている、明石西高校出身の 安藤 陽介君と会いました。毛笠先生の話で盛り上がりました。また、安藤君は加古川出身なので、地元の話でも盛り上がりました。大学のアリーナで、週一回夜にジョグ&インターバル練習(5kmと5km)をして、共に汗を流しています。

遠い異国の地で地元の人と会うことができるなんて、ほんとと世間はせまいと感じました。それは、ここマレーシアでも同じですね。

2014年5月4日(日)

マレーシア日本国際工科院で行われたボランティア

「The 8th annual Japanese Language Festival (第8回日本語フェスティバル)」

サイエンス系のブースを出展してくれということで、僕たちは液体窒素と静電気関係をしました。科学の祭典の屋外バージョンみたいでした。湿気がとても多く、予想はしていましたが、あまり静電気の現象は顕著に見ることができませんでした。数人がかり静電気をためるのに頑張りました。特にライデン瓶が人気でした。



2014年5月9日(金)

大学内でのマレー語 研修講座

マレー語は単語の量、文法の関係上、学びやすいといわれているらしいです。講師は安倍首相が来馬したときに通訳を務めた、ジャミラさんという方でした。この方も、このコースで教えている先生であり、流暢な日本語を話されます。



Apa khabar? 「お元気ですか?」
(アパ カバー?)

Khabar baik? 「はい、元気です。」
(カバー バイク)

Saya berasal dari Tokyo, Jepun.
(サヤ ブラサル ダリ トキョウ ジャパン)
「私は日本の東京から来ました。」

等々